岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

喘息児の健康づくり処方ノーム作成に関する保健学的研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三井, 淳蔵 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/120

はしがき

私たちが生活している環境には、多種多様な細菌や微生物が存在している。私たちの体はこれら病原菌の侵入により絶えず病気を引き起こす危険に晒されています。

しかし、私たちの体にはその恐ろしい細菌や微生物・異物を取除き、自らの体を守る免疫と言うメカニズムが働いています。しかも免疫と言うメカニズムは、守るべき自己の組織と排除すべき細菌や微生物・異物その他の個体の細胞や癌細胞などの非自己を明確に区別して、私たちの体を無数の恐ろしい外敵から保護していてくれます。

また、免疫作用には、ある種の細菌やウイルスを弱毒化あるいは無毒化し、そのワクチンヲ予防接種し、私たちの体にそれらの細菌の毒素を中和したり、ウイルスの活動を阻止したりする抗体を造り、体を保護する働きをしています。

私たちの体は、この様に有能で効果的な防衛機構を備えている訳ですが、中には膚の青い魚（鯖など）を食べると蕁麻疹がでたり、杉花粉の飛散する時期になると目がかゆく、鼻汁が出たりする、いわゆるアレルギーと呼ばれる体質の人があります。

今では、免疫反応が生体の保護とは逆に障害を引き起こすことが知られています。フランスのリシェー（Richet,Charles Robert.1906）は、抗原と繰返し接触するうちに、生体を保護すべき抗体の作用が逆に侵入してくる抗原との間で特殊な反応を起こすことをアレルギーと呼びました。

1991年、私たちが岐阜県全域にわたる小学校児童生徒2,658名を対象に、喘息・アトピー性皮膚炎などアレルギー性疾患の有無について調査したところ、5人に一人の子供が何等かのアレルギー性の疾患を持っていることがわかりました。

10年程前には、約4％の子供がアレルギー性疾患を持っていると言われていましたが、どうしてこんなに急増したのでしょうか。なんだか豊かな生活と関係が有りそうな気がします。生活環境・条件などの快適さ便利さと引き替えに、環境破壊・公害をもたらし、また飽食時代といわれながら、インスタント食品や過度な動物性蛋白食品等への偏りが、私たちの免疫機能の異常な反応を引き起こしているのではないでしょうか。

特に、喘息発作については、古代ギリシャの医聖ヒポクラテス（BC400）の本の中にもその記述が在ると言われております。喘息発作はゼーゼーという気道狭窄音を伴う呼吸困難で、気温の変化・ほこり・花粉・運動や精神的心理的因子によっても引き起こされます。

発育期にある子供たちが、喘息発作の苦しさから、運動をひかえ、また積極的に行動したり、仕事に取り組むことができないようであれば、子供時代に培われなければならない人格や人間形成に大きな影を落とすこととなるでしょう。

これまで、私たちは過去10年余にわたり喘息児水泳教室を開催して参りました。この結果、喘息児の体力は向上し生活へ取り組む積極性も良くなって来たように思われました。しかし、疾病としての喘息が本当に良くなったと思われる子と全く変化のない子が見受けられました。

しかしながら、私たちは、喘息児でも、かなりの強度の運動負荷を加えることが可能であること、そして運動の苦しさに耐えることが喘息児に積極性と頑張ることの楽しさを体験させることができました。

そこで、これまでの定説の様になり、そして私たちも信じてきました水泳訓練の効果を踏まえて、剣道による鍛練を試みることとしました。

剣道の指導は、岐阜県加茂郡富加町の究道館館長の坂井康彦先生（剣道7段教師・岐阜県立可児高等学校教諭）にお願いしました。先生には熱心に他の子供たちと同様に分け隔てなく喘息児の指導をしていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、研究指導を頂きました、元愛知医科大学教授 加藤孝之博士、測定実験に御協力頂きました岐阜教育大学講師 森美喜夫先生に深く感謝致します。

平成６年３月

三　井　淳　藏